

No. 11-101 第24回トワイライトセミナー
福島原発震災の情報非対称性への技術者の役割

開催日 2011年10月12日(水) 18.30~20.00
会場 キャンパス・イノベーションセンター(東京) 708号室
講師 加部隆史 NPO安全工学研究所代表理事、博士(工学)日本機械学会産業・
化学機械と安全部門 部門長
佐田守弘 日本機械学会 産業・化学機械と安全部門 食の安全委員会委員長

福島原発震災は数カ月経過した後でも收拾の目処が立っておらず、人・家畜・財産に対し多大な危害をもたらしています。今回の過酷事故は、人が制御できない核の扱いにつき、世界中に多くの課題を投げかけています。何故事故が起きたか、安全基準は適切であったか、そして放出され続ける放射性物質にどう向き合うか等につき、当初から国や電力会社が発信する情報に対し、実際に起きている事象と異なる現象、つまり情報の非対称性が生じています。



講演会場の様子

この講演では何が正しい情報か、そして技術者は正しい情報をどう伝えるか? 住民は何を正しい情報として信じるべきか? について、現在、当部門(産業・化学機械と安全部門)の部門長でもある加部隆史氏と元当部門、部門長の佐田守弘氏(現在、当部門 食の安全委員会委員長)の両氏により、二本立てで講演は行われた。

前半、加部氏の講演では震災発生から、国および電力会社の情報発信と、実際の被害の状況から、情報非対称性についてお話があった。技術者の責任よりむしろ、技術者(専門家)の意見を受け入れる土壌がない、さらに、情報発信の過程や方法に問題があることについて触れられていた。

後半、佐田氏の講演では食の安全をメインに、基礎的な放射線、放射能の知識から、食と放射線、放射能、現在、国が定めている国の基準に関する内容について説明があった。さらに、考えられる健康被害についてもお話があった。



講師 佐田守弘氏

さらには食品製造・流通業界からの立場から原子力発電と電力について問題について説明があった。



講師 加部隆史氏

この講演は現在日本だけではなく世界が抱えている問題について触れたものでもあり、聴講者からの質問も多岐にわたり講演時間を延長するほど、大変盛況な講演会であった。

当部門ではこの福島原発震災についてディスカッションペーパーを当部門ホームページにおいて、公開している。詳しくは下記 URL より参照していただきたい。

<http://www.jsme.or.jp/icm/database.html#fukushima-crisis> (参加者 12 名)